



輝く
恵那人

243人目



明智町駅前町
阿部 義和さん (76歳)

□プロフィール

阿部歯科(明智町)の開業医で県歯科医師会の会長。趣味は読書で新書を開くときの匂いが好き。お薦めの本は司馬遼太郎の『坂の上の雲』や、ユヴァル・ノア・ハラリの『ホモサピエンス全史』。最近は書齋に本が入りきらなくなり整理に困っているとほほ笑む。



▲県歯科医師会PRキャラ健口武将「ぎふ剣士」と阿部さん

阿部歯科の開業医で、12年にわたり(公社)岐阜県歯科医師会の会長を務める阿部義和さん。県民の歯と口の健康を守り、健康寿命を延ばすため日々尽力している。医療皆保険制度が整備され、誰でも医療を受けられるようになった昭和30年代。人口増加に加え、戦後の食生活の変化から砂糖の消費が急増。虫歯患者が急増し歯科医不足が社会問題になっていた。そのような背景から阿部さんは、高校卒業後、愛知学院大学の歯学部へ進学。「厳しかった」と振り返る学生生活は、実習や深夜まで大学で勉強に励む日々を過ごした。卒業後は同大学で助手として研究と教育に携わり、29歳の頃、故郷の明智町で阿部歯科を開業。予約はすぐ埋まり正月も急患対応に追われる忙しい日々を過ごした。その傍ら、子どもの虫歯予防に力を入れ、明智町役場保健センターで歯科指導を行うなど、地域に根ざした活動を続けてきた。

64歳で同会の会長に就任。地域ごとにやり方が異なっていた「ぎふ・さわやか口腔健診」の統一化と健診結果のデータ化に尽力し、昨年4月には県内全ての歯科で受診できる「オーラルフレイル健診」を開始。前年比で受診率を向上させることに成功した。同会の他、70代で(公社)日本歯科医師会の副議長・議長も歴任。「県内での東濃地域、全国での岐阜県は認知度が低く医師も少ないが、地方の歯科医療の現状や自分の意見を広く伝えてきた。田舎の意地のようなもの」と、活力の根底にある思いを笑顔で語る。本年6月で会長を退任する阿部さん。「今後はより自由に、歯と口の健康伝道師として活動したい。健康は一人のものではなく、家族そして社会にも影響を及ぼす。健康寿命を延ばすには口の健康が重要だと広く伝えていきたい」と、これからも正しい歯科知識を広めるために活動していく。

健康は歯から口から笑顔から 歯と口の健康伝道師として



その他の話題もウェブサイトに満載

News & Topics まちのわだい

4/11

中野方小「みどりの少年団」が
県奨励賞を受賞



令和6年度県みどりの少年団活動発表大会で同少年団(当時5年生)が奨励賞を受賞しました。柘植駿希さん(6年生)は「水源の森に5千万リもの水が蓄えられていると知り、中野方町の自然のすごさを感じた。豊かな自然を守るため、できることを考えたい」と意欲を語りました。

4/4・5

未来につなぐ恵那の桜
全国さくらシンポジウム



桜の名所づくりとまちづくりを考えるため、「2025全国さくらシンポジウムin恵那」を開催。記念植樹式から始まり、三好孝の曾孫・石田仁氏による講演やパネルディスカッション、現地説明会、恵那峡さくらまつりなどが企画され、全国から訪れた人々は恵那の桜を堪能しました。

4/12

改修後の五毛座で初開催
笠周三町伝統芸能祭



笠周三町伝統芸能祭が、五毛座改修後初めて開催され、各団体が演技や演奏を披露。約200人の観客を魅了しました。「白浪五人男」に出演した、飯地小学校の西尾慎さん(4年生)と西尾泉さん(3年生)は「緊張したけど、楽しかった。また舞台に立ちたい」と笑顔で話しました。



▲八重桜「舞姫」記念植樹式



▲石田仁氏による記念講演



▲恵那ダムフォトコン表彰式



▲恵那峡さくらまつり

4/23

中山道広重美術館が
スポンサーに感謝状を贈呈



本美術館は現在6社のスポンサーの協力により、水曜日と金曜日の入館料を無料としています。感謝状を受け取った、提案者である㈱サラダコスモ(中津川市)の中田智洋社長は「本制度が文化事業の手本となり、来場者増加につながることを期待している」と話しました。

4/20

春の恵那を駆け抜ける
恵那峡ハーフマラソン



第22回恵那峡ハーフマラソンが開催され、2,157人のランナーが春の恵那を駆け抜けました。3部一般男子の部で優勝した山田真侑さん(明智町)は「アップダウンが多いコースなので自分でペースを組み立てるのがおもしろい。自己ベストを更新できた」と振り返りました。